

プレスリリース

Kosho Ito WORKS 1974-2009

伊藤公象

8/1 (土) - 10/4(日)

広報問い合わせ先

東京都現代美術館 事業企画課企画係広報班 江東区三好4-1-1

野口 r-noguchi@mot-art.jp

小原 k-ohara@mot-art.jp

TEL: 03-5245-1134(直通)

FAX: 03-5245-1141

MOT
MUSEUM CONTEMPORARY TOKYO
OF ART
東京都現代美術館

1 展覧会概要

伊藤公象__秩序とカオス__

東京都現代美術館では各時代の現代美術の動向を振り返り、その歴史的な意味を検証するために、長年にわたって活躍を続けるベテラン作家の個展を実施してきました。その一環として開催される本展では、日本を代表する作家として知られる伊藤公象の35年にわたる歩みをご紹介します。

伊藤公象は土を素材にした陶造形で知られる作家です。1932年に金沢の彫金家の長男として生まれ、十代の頃に陶芸家のもとに弟子入りしましたが、その後は伝統の世界から離れ、美術という概念を問い直すような新しい表現を土を素材に追求してきました。ある時は土を凍らせ、ある時は乾燥による土の収縮や亀裂を創作に採り込むなど、自然現象を活かした独自の造形は早くから注目を集めました。1978年にはインド・トリエンナーレ、1984年にはヴェネツィア・ビエンナーレにそれぞれ日本代表として参加するなど、その活躍の場は国内を問わず海外まで広がり、土の造形のパイオニアとして高い評価を得てきました。

本展は作家が所蔵する主要作品を軸に、各地の美術館が所蔵する代表作を加えて、伊藤公象の作品の全貌を紹介する回顧展です。土に本格的に取り組み始めた1974年から現在に至る約35年にわたる軌跡を通して、人為をできるだけ抑え、自然の作用を採り込む有機的な創作の世界をご紹介します。また、当館の広い展示空間にあわせて構成される大型インスタレーションや最新作の展示もご堪能いただけます。

豊かな生命力を喚起してやまない伊藤公象の作品は、自然と人間との関係性が問い直される21世紀にあって多くの示唆をわたしたちに与えてくれるでしょう。

2. 展覧会の見どころ

1. 千変万化する土の表情を楽しむ

伊藤公象は様々な土を素材に使っています。現在、住んでいる茨城県笠間市の土、カオリンと呼ばれる磁土、鉄分の多い赤い陶土など、土の性質の違いによって完成作には独特の色や表情が現れています。また土をごく薄くスライスしたり、一回凍らせてから焼いたりなど伊藤自身が考案した技法によって、花びらのような繊細なエッジや美しい結晶模様などが生み出されました。豊かなバリエーションをもつ土の魅力を存分にお楽しみいただけます。

2. 自然の生命力を味わう

作品の表面に現れる大きな亀裂(きれつ)、細やかな皺(ひだ)、柔らかそうな曲面は、作品がまるで生きて動いているかのような錯覚を観るものに与えます。伊藤公象は人間の作為をできるだけ排除し、土そのものの性質を引き出すような創作を目指しています。それは自然との対話から生まれた芸術とも言えるでしょう。私たちは作品に潜む自然の声に耳を澄ますことで、幼い頃にだれもが親しんだ懐かしい土の生命力に再び出会えるのです。

3. 床一面に広がる作品

伊藤公象の作品は、無数の小さなパーツによって構成されています。作家自身がそれを一つ一つ床に置くことで作品が完成するのです。一つの作品には100から2000個という多数のパーツが使われますが、どれも似ているようで、どれ一つとして同じものはありません。それが展示室の床にびっしりと広がる光景はわれわれの想像力を刺激し、観るものに強い印象を残します。壁にかけられた絵画とは異なり、私たちの足もとに大地のように広がる作品は、これまでにない新鮮で迫力ある鑑賞体験をもたらします。

4. 待望された東京での初の大規模回顧展

国際的にも活躍する伊藤公象の作品は大型であるため、これまでまとまった形で見られる機会はありませんでした。今回、作家の代表作である大型インスタレーションが一堂に会します。当館の広大な展示空間に合わせて再構成されるインスタレーションは、ここでしか見られない貴重なもの。

ダイナミックな展示をお楽しみください。

3. 作家略歴

- 1932 金沢の彫金家の長男として生まれる。
- 1946 九谷焼の陶芸家中村翠恒に師事。
- 1959 富山で作家活動を開始。
- 1962 東京に居を移す。
- 1969 茨城県笠間市に転居。
- 1972 「美術工房桑土舎」を伊藤知香とともに設立する。
- 1977 第2回北関東美術展でグランプリ受賞。
- 1978 インド・トリエンナーレに日本代表として参加（ゴールド・メダル受賞）。
- 1984 ヴェネツィア・ビエンナーレに日本代表として参加。
- 1990 女子美術大学芸術学部工芸科（陶芸研究室）教授（～1999）
- 1996 初の回顧展「土の地平 伊藤公象展」を富山県立近代美術館で開催。
- 2002 個展「VIRUS 伊藤公象」をテート・セント・アイヴス（イギリス）で開催。
笠間芸術の森公園内「陶の杜」造成にアート・プロデューサーとして参加。
金沢美術工芸大学大学院専任教授（～2009.3）

パブリック・コレクション

東京都現代美術館
愛知県美術館
茨城県陶芸美術館
いわき市立美術館
国立国際美術館
世田谷美術館
高松市美術館
富山県立近代美術館
広島市現代美術館
フランス国立陶磁器美術館
台北市立美術館
インド国立近代美術館ほか



(7. 作家ポートレート)

4. 展覧会概要

展覧会名	伊藤公象 WORKS 1974-2009
会期	2009年8月1日（土）～10月4日（日）
休館日	月曜日（ただし8月10日、17日、9月21日、28日は開館）
開館時間	10:00～18:00（入場は閉館の30分前まで）
会場	東京都現代美術館 企画展示室B2階 東京都江東区三好4-1-1
主催	財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館/ 読売新聞東京本社/ 美術館連絡協議会
協賛	ライオン/ 清水建設/ 大日本印刷 日本ビューレット・パッカード株式会社、深川資料館通り商店街協同組合
観覧料	一般 1,000円（800円） 学生 800円（640円） 中高生・65歳以上 500円（400円） ※（ ）内は20名様以上の団体料金 ※同時開催の「メアリー・ブレア展」のチケットをお持ちの方は、 本展を半額でご覧いただけます。 ※本展のチケットで「MOTコレクション」もご覧いただけます。
交通案内	東京メトロ半蔵門線・清澄白河駅B2番出口より徒歩9分 都営地下鉄大江戸線・清澄白河駅A3番出口より徒歩13分 東京メトロ東西線・木場駅3番出口より徒歩15分、又は都営バス（業10） 「業平橋駅前」行き、（東20）「錦糸町駅前」行きで「東京都現代美術館前」下車 都営地下鉄新宿線・菊川駅A4番出口より徒歩15分、又は都営バス（業10） 「新橋」行き、（東20）「東京駅丸の内北口」行きで「東京都現代美術館前」下車 JR東京駅丸の内北口2番乗り場より、都営バス（東20）「錦糸町駅前」行きで 「東京都現代美術館前」下車 首都高速「木場」又は「枝川」出口利用
問い合わせ	TEL. 03-5245-4111（代表） 03-5777-8600（ハローダイヤル）
出品点数	約20点
担当学芸員	森千花
同時開催	「メアリー・ブレア展」 7月18日（土）～10月4日（日） 「MOT×Bloomberg PUBLIC 'SPACE' PROJECT 大西麻貴＋百田有希」 8月1日（土）～2010年1月17日（日）
広報問い合わせ	野口玲子 r-noguchi@mot-art.jp 小原久実子 k-ohara@mot-art.jp TEL. 03-5245-1134（直通） FAX. 03-5245-1141

5. 特別プログラム

プログラム名	アーティスト・トーク
概要	アーティスト伊藤公象氏による作品解説
日時	9月20日（日）13:00～14:00
対象・参加方法	ご希望の方はチケットをお求めの上、展覧会入口にお集まりください。（予約不要）
費用	無料

プログラム名	タッチ&トーク
概要	作品の一部を特別に手で触って確かめながら鑑賞するツアー。
日時	8月9日（日）、8月23日（日）、9月19日（土） 11:00～12:00
対象・参加方法	ご希望の方はチケットをお求めの上、展覧会入口にお集まりください。（但し各回当日朝より受付、先着15名）
費用	無料

プログラム名	シルバーデー企画
概要	65歳以上の方は下記の日に無料で展覧会をご覧になれます。
日時	8月19日（水）、9月16日（水）
対象・参加方法	65歳以上の方が対象。年齢が確認できるものをお持ち頂き、展覧会チケットとお引き換え下さい。
費用	無料

プログラム名	アートピクニック“ひみつの観察”
概要	伊藤公象展の作品をここでしかできない方法で調査して、観察日記をつくります。
日時	8月22日（土）、8月23日（日） 13:30～15:30 小学校3～6年生 各日15名
対象・参加方法	往復ハガキに参加希望日、住所、氏名、学年、電話番号を記入の上、東京都現代美術館「伊藤公象展アートピクニック」係宛に8月10日までに申し込み（消印有効）。応募者多数の場合は抽選。
費用	無料

プログラム名	ワークショップ“伊藤公象の追体験”
概要	作家になったつもりで、同じ方法で木の肉・土の刃をつくってみる追体験ワークショップ。作家が直接指導します。
日時	9月13日（日）13:00～15:30 中学生以上15名
対象・参加方法	往復ハガキに住所、氏名、年齢（学年）、電話番号を記入の上、東京都現代美術館「伊藤公象展ワークショップ」係宛に9月1日までに申し込み（消印有効）。応募者多数の場合は抽選。
費用	無料

6. 広報用素材

作家ポートレートと下記の6点を広報用素材としてご用意しております。掲載ご希望の方は別紙申込書にてお申しつけくださいませ。



1. 《アルミナのエロス（白い固形は…）》
1984年 東京都現代美術館蔵



2. 《客土シリーズ 長石による襷 No.2》
2000年 作家蔵



3. 《土の襷—青い凍結晶—》 2007年 作家蔵



4. 《土の襷 踊る焼凍土》 2008年 作家蔵



5. 《木の肉・土の刃》 1991年 高松市美術館蔵



6. 《木の肉・土の刃II》 1993年 愛知県美術館蔵

写真貸出申込書

展覧展広報用として画像を7枚をご用意しております。ご希望の際は下記申込用紙に必要事項をご記入の上ファックス又はe-mailにてお申してください。また読者プレゼント用招待券をご希望の方はあわせてお知らせください。

なお、写真のご使用に際し、以下の点をご注意ください。

①キャプションは作品の下に作家名、作品名、制作年、撮影者等を必ず表記ください。

②作品写真のトリミング、文字のせをすることはできません。

*本展記事をご紹介いただく場合には、恐れ入りますが情報確認の為にグラブリ、掲載誌（紙）、DVD、ビデオ、URL等をお送りください。

雑誌名・番組名・サイト名	
種別に○をつけてください	TV ラジオ 雑誌 新聞 フリーペーパー ネット媒体 携帯サイト その他
発売・放送予定日	
御社名	
ご担当者名	
e-mailアドレス	
住所	〒
電話番号	
ファックス番号	

図版番号

ご希望の図版に✓をつけてください。

1. 《アルミナのエロス（白い固形は…）》 1984年 東京都現代美術館蔵 撮影：内田芳孝
2. 《客土シリーズ 長石による襷 No.2》 2000年 作家蔵 撮影：山本紉
3. 《土の襷—青い凍結晶—》 2007年 作家蔵 撮影：内田芳孝
4. 《土の襷 踊る焼凍土》 2008年 作家蔵 撮影：内田芳孝
5. 《木の肉・土の刃》 1991年 高松市美術館蔵 撮影：内田芳孝
6. 《木の肉・土の刃II》 1993年 愛知県美術館蔵 撮影：内田芳孝
7. 作家ポートレート

広報お問い合わせ先 TEL:03-5245-1134 (直通) FAX: 03-5245-1141

東京都現代美術館 事業企画課企画係広報班 江東区三好4-1-1

野口 r-noguchi@mot-art.jp 小原 k-ohara@mot-art.jp